

## 展示室5 荒川修作

2023年1月14日(土)～4月9日(日)

本室では、当館寄託作品より1960年代から2000年代にかけて活躍した美術家、荒川修作の作品をご紹介します。  
荒川修作(1936-2010)の絵画作品は1960年代から開始された「意味のメカニズム」というプロジェクトに属するものです。荒川はパートナーである詩人で美術家のマドリン・ギンズ(1941-2014)とともに、視覚、聴覚を失ったヘレン・ケラーが言語を視覚のかわりとして自ら知覚世界を再構築したことに着想を得て、絵画上で独自の認識のメカニズムを表現しようと試みたのです。

なにかの図面のような図式(ダイアグラム)と、型抜き文字や手書きの言葉。荒川修作の絵画に向かい合うとき、私たちは従来とは違った絵画との接し方を要求されることとなります。文字を読み、その内容を考えること。図形を見て、それが表すものと言葉との関連を考えること。そこにある線、色彩、形態を知覚すること。しかしそれらは、明確な答えを与えてはくれません。荒川の作品は読み解かれるためではなく、鑑賞者が思考をめぐらせる過程の中で、これまで当たり前と思ってきた事物と言葉の関係や知覚のあり方を問い直すことをうながすエクセサイズ(練習)なのです。

1980年代以降、荒川は知覚や感覚を変革することで、死という逃れられない人間の運命を「反転させる」、死なないための住宅「天命反転都市」の建築プロジェクトに着手し、実際に《養老天命反転地》(1995年、岐阜県養老郡養老町)や《三鷹天命反転住宅》(2005年、東京都三鷹市)を建設しました。荒川による壮大な実験の出発点である絵画、ドローイング、版画作品をどうぞご覧ください。

No.	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)	備考
1	無題	1963	油彩・カンヴァス	230.5×160.5	寄託作品
2	底なし2	1965	油彩・カンヴァス	202.0×160.0	寄託作品
3	アルファベット・スキン No.3	1965-66	油彩・カンヴァス	229.5×369.0 (3枚組)	寄託作品
4	分割された連続体	1965-66	油彩・カンヴァス	160.0×243.0	寄託作品
5	分割された連続体	1966	混合技法・紙	66.2×101.6	寄託作品
6	分割された連続体 2	1966	油彩・カンヴァス	160.0×247.0	寄託作品
7	窓辺にて	1967-68	油彩・カンヴァス	183.0×747.0 (6枚組)	寄託作品
8	それを見よ	1968	シルクスクリーン・マイラー	82.0×103.0	寄託作品
9	絵画ら	1968-69	混合技法・紙	116.8×89.1	寄託作品
10	かたち	1969	混合技法・紙	88.7×117.0	寄託作品
11	一個のレモンにおけるあいまいな地帯の提示	1971	混合技法・紙	101.8×76.4	寄託作品
12	それは誰か	1972	混合技法・紙	89.1×116.8	寄託作品
13	肖像	1972	混合技法・紙	69.5×105.1	寄託作品
14	序	1974	アクリル・カンヴァス	195.5×305.4	寄託作品
15	試みの鏡のためのスケッチ No.4	1974	混合技法・紙	75.2×106.0	寄託作品
16	意味されるもの あるいはもしも No.2	1975-76	エッチング、アクアチント・紙	60.5×90.5	寄託作品
17	ヘレン・ケラー、あるいはヨーゼフ・ボイスの肖像	1986	リトグラフ・紙	61.2×81.5	

※都合により展示作品を変更する場合がございます。

また本リストの順番はかならずしも展示順とは一致しません。ご了承下さい。